

(24) いちご

病害虫	防除法	参考事項	
萎黄病	(耕種的・物理的防除)	○ とちおとめは弱い。	
	1 3～4年間以上輪作すると実害は減る。		
	2 抵抗性品種を作付けする。		
	3 夏期ハウス密閉による土壌消毒又は土壌還元消毒を行う(共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項 を参照)。		
	(薬剤防除) 農薬登録情報		
	1 健全な株を選び、トップジンM水和剤に苗根部を浸漬する(活着遅延あり)。		
	2 トップジンM水和剤をかん注する。		
	4 土壌くん蒸剤により土壌消毒を行う(共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項 を参照)。		
	薬剤名		
	ガスタード微粒剤/バスアミド微粒剤		
	キルパー		
クロールピクリン			
ドジョウピクリン/クロピク80/ドロ			
クロール			
クロピクテープ			
クロピクフロー			
クロルピクリン錠剤			
ソイリーン			
ダブルストッパー			
ディ・トラベックス油剤			
NCS			

うどんこ病

(予防に関する措置)

1 ほ場の排水を良好に保つ。

2 窒素過多を避ける。

3 施設栽培では、換気や風通しを良くする。

4 茎葉の過繁茂を避けるため、摘葉を実施する。

5 苗を介したほ場への持込みを防ぐため、育苗床での防除を徹底する。

(判断、防除に関する措置)

1 生物農薬を活用する。

2 紫外線（UV－B）ライトを活用する。

3 薬剤散布を行う場合には、薬液が葉裏に十分付着するよう、丁寧に散布する。

4 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期から薬剤散布等を実施する。

5 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除)

農薬登録情報

1 微生物殺菌剤

薬剤名

アグロケア水和剤

インプレッションクリア

タフパール

ボトキラー水和剤

クリーンカップ

2 気門封鎖剤

薬剤名

アカリタッチ乳剤

エコピタ液剤

オレート液剤

サフオイル乳剤

サンクリスタル乳剤

ビタイチ

フーモン

ムシラップ

粘着くん液剤

3 定植前の苗をサンヨールに浸漬する。

4 育苗期又は発病初期から7～10日ごとに、下記薬剤のいずれかを2～3回散布(又はくん煙)する。

薬剤名

備考

気門封鎖剤

アフエットフロアブル

硫黄粉剤(50又は80)

カリグリーン

カナメフロアブル

ケンジャフロアブル

サンヨール

ジーファイン水和剤

ショウチノスケフロアブル

水和硫黄剤

スクレアフロアブル

パレード20フロアブル

参考事項参照

○ ふさの香、チーバベリーは、うどんこ病に強い。

○ サンヨールの苗浸漬を行う場合、根を露出した状態では薬害を生じるので、ポット苗(ポットをつけたまま)以外には使用しない。また、所定濃度又は時間以上に浸漬しないようにする。

○ 高温期には各薬剤とも薬害が出やすいので気をつける。

○ サンヨールは連用により薬害を生じることがある。

○ 水和硫黄剤でいちごうどんこ病に登録のある主な薬剤は次のとおり。イオウフロアブル、サルファーゾル

○ くん煙剤の使用については、共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方法の項を参照する。

病害虫	防除法	参考事項
うどんこ病	パンチョTF顆粒水和剤 フルビカフロアブル クロスアウトフロアブル ベルコートフロアブル ポリオキシシナール水溶剤	
疫病	(耕種的・物理的防除) 1 健全な親株を選ぶ。また、低湿地に作付けず排水を良くする。うね間かん水をしない。多肥も避ける。 2 発病株は、その周囲の株と共に速やかに抜き取り、処分する。 3 苗が直接雨水にかからないように、雨よけ栽培をする。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 植付け場所は土壌消毒する(共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照)。 2 下記薬剤のいずれかを散布する。 薬剤名 オラクル顆粒水和剤 ピシロックフロアブル ランマンフロアブル リドミルゴールドMZ レーバスフロアブル	○ さがほのか、さちのか、アスカルビーは弱い。紅ほっぺ、章姫、とちおとめは強い。 ○ 根腐症状を呈する。 ○ 地際部が犯される。炭疽病と区別しにくい。 ○ 冠水すると多発しやすい。
じゃのめ病	(耕種的・物理的防除) 1 発病の認められる葉やランナー等を除去し、土中10cm以下に埋める。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 ジマンダイセン水和剤又はトリフミン水和剤を、7～10日おきに2～3回、葉の裏にもかかるように散布する。	○ 斑点性病害には、夏に発生しやすい輪斑病(下～中位葉から発生)、新葉から発生しやすいじゃのめ病、秋冷とともに増加する葉枯病がある。 ○ ジマンダイセン水和剤には展着剤を加用する。

病害虫	防除法	参考事項																											
炭疽病	(予防に関する措置) 1 窒素過多を避ける。 2 親株には、未発生ほ場で育てた健全な苗を使用する。 3 育苗中は、雨よけ育苗や底面給水を実施する。 4 親株は第1ランナーが生育したら早めに除去する。 5 採苗はできるだけ梅雨前に行う。 6 苗を介したほ場への持込みを防ぐため、育苗床での防除を徹底する。 (判断、防除に関する措置) 1 発病株を速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。 2 生物農薬を活用する。 3 発病を確認してからの防除は困難であることから、発生予察情報を参考に、発病前から定期的に薬剤散布を実施する。 4 発生状況に応じて、土壤消毒を実施する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 微生物殺菌剤 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>タフパール</td></tr></table> 2 植付け場所は土壤消毒しておく (共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照)。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>ガスタード微粒剤/バスアミド微粒剤</td></tr><tr><td>キルパー</td></tr><tr><td>クロールピクリン</td></tr><tr><td>ドジョウピクリン/クロピク80/ドロクロール</td></tr><tr><td>クロルピクリン錠剤</td></tr><tr><td>ソイリーン</td></tr><tr><td>ダブルストッパー</td></tr><tr><td>ディ・トラベックス油剤</td></tr></table> 3 親株の時期及び育苗中から下記薬剤のいずれかを予防的に処理する。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>アミスター20フロアブル</td></tr><tr><td>アントラコール顆粒水和剤</td></tr><tr><td>オーソサイド水和剤80</td></tr><tr><td>キノンドーフロアブル</td></tr><tr><td>ゲッター水和剤</td></tr><tr><td>ジマンダイセン水和剤</td></tr><tr><td>デランフロアブル</td></tr><tr><td>ベルクートフロアブル</td></tr></table> 4 本ぼ定植後は下記薬剤のいずれかを散布する。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>アミスター20フロアブル</td></tr><tr><td>オーソサイド水和剤80</td></tr><tr><td>ゲッター水和剤</td></tr><tr><td>セイビアーフロアブル20</td></tr><tr><td>ファンタジスタ顆粒水和剤</td></tr><tr><td>ベルクートフロアブル</td></tr></table>	薬剤名	タフパール	薬剤名	ガスタード微粒剤/バスアミド微粒剤	キルパー	クロールピクリン	ドジョウピクリン/クロピク80/ドロクロール	クロルピクリン錠剤	ソイリーン	ダブルストッパー	ディ・トラベックス油剤	薬剤名	アミスター20フロアブル	アントラコール顆粒水和剤	オーソサイド水和剤80	キノンドーフロアブル	ゲッター水和剤	ジマンダイセン水和剤	デランフロアブル	ベルクートフロアブル	薬剤名	アミスター20フロアブル	オーソサイド水和剤80	ゲッター水和剤	セイビアーフロアブル20	ファンタジスタ顆粒水和剤	ベルクートフロアブル	○ 炭疽病に対する品種抵抗性 弱い：女峰、とちおとめ、章姫 強い：かおり野 ○ ジマンダイセン水和剤には展着剤を加用する。
薬剤名																													
タフパール																													
薬剤名																													
ガスタード微粒剤/バスアミド微粒剤																													
キルパー																													
クロールピクリン																													
ドジョウピクリン/クロピク80/ドロクロール																													
クロルピクリン錠剤																													
ソイリーン																													
ダブルストッパー																													
ディ・トラベックス油剤																													
薬剤名																													
アミスター20フロアブル																													
アントラコール顆粒水和剤																													
オーソサイド水和剤80																													
キノンドーフロアブル																													
ゲッター水和剤																													
ジマンダイセン水和剤																													
デランフロアブル																													
ベルクートフロアブル																													
薬剤名																													
アミスター20フロアブル																													
オーソサイド水和剤80																													
ゲッター水和剤																													
セイビアーフロアブル20																													
ファンタジスタ顆粒水和剤																													
ベルクートフロアブル																													

病害虫	防除法	参考事項																														
芽枯病	耕種的・物理的防除 1 健全株からランナーを採り、深植えをしない。 2 早春高温時には、特に換気を良くし多湿を避ける。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 ガスタード微粒剤/バスアミド微粒剤で土壌消毒をする (共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照)。 2 オーソサイド水和剤 80 を散布する。																															
灰色かび病	(予防に関する措置) 1 ほ場の排水を良好に保つ。 2 多湿条件で発生しやすいことから、施設内の湿度を低く保つ。 3 風通しを良くするために、密植を避ける。 4 過繁茂にならないように、適正な施肥管理を行う。敷わら又はマルチの敷設により、果実が地表面に接触しないようにする。 (判断、防除に関する措置) 1 枯死葉、老化葉、発病葉、発病果等を除去し、ほ場外で適切に処分する。 2 生物農薬を活用する。 3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による発病株の早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。 4 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 葉柄基部に早くから発病することがあるので、それらはよく摘除し、開花前に薬剤を散布しておく。 <table><thead><tr><th>薬剤名</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>ハーモメイト水溶剤</td><td></td></tr><tr><td>ポリオキシシンAL水溶剤</td><td>ちばエコのみ</td></tr><tr><td>ジャストミート顆粒水和剤</td><td></td></tr><tr><td>セイビアーフロアブル 20</td><td></td></tr><tr><td>ダイマジン</td><td></td></tr><tr><td>フルピカフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>ベルクートフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>アフエットフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>アミスター 20 フロアブル</td><td></td></tr><tr><td>カンタスドライフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>スミレックス水和剤</td><td></td></tr><tr><td>パレード 20 フロアブル</td><td></td></tr><tr><td>ファンタジスタ顆粒水和剤</td><td></td></tr><tr><td>ロブラール水和剤</td><td></td></tr></tbody></table>	薬剤名	備考	ハーモメイト水溶剤		ポリオキシシンAL水溶剤	ちばエコのみ	ジャストミート顆粒水和剤		セイビアーフロアブル 20		ダイマジン		フルピカフロアブル		ベルクートフロアブル		アフエットフロアブル		アミスター 20 フロアブル		カンタスドライフロアブル		スミレックス水和剤		パレード 20 フロアブル		ファンタジスタ顆粒水和剤		ロブラール水和剤		○ 多湿時に多発する。
薬剤名	備考																															
ハーモメイト水溶剤																																
ポリオキシシンAL水溶剤	ちばエコのみ																															
ジャストミート顆粒水和剤																																
セイビアーフロアブル 20																																
ダイマジン																																
フルピカフロアブル																																
ベルクートフロアブル																																
アフエットフロアブル																																
アミスター 20 フロアブル																																
カンタスドライフロアブル																																
スミレックス水和剤																																
パレード 20 フロアブル																																
ファンタジスタ顆粒水和剤																																
ロブラール水和剤																																

アブラムシ類

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 無寄生苗を使用する。
- 3 施設栽培においては、防虫ネット、紫外線除去フィルム、光反射資材によるマルチ、粘着シート等の活用により、施設内への侵入を防止する。ただし、受粉を目的としてマルハナバチを利用する場合には、紫外線除去フィルムの使用がマルハナバチの活動に影響を与えることに留意する。
- 4 有翅(し)虫の飛来を防止するため、光反射資材によるマルチ若しくはシルバーテープ又は風上方向に防風垣若しくは防風ネットを設置する。

(判断、防除に関する措置)

- 1 生物農薬(下表)を活用した防除を行う。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

1 生物農薬

薬剤名(天敵名)	備考
アフィパール (コレマンアブラバチ)	施設栽培
コレトップ (コレマンアブラバチ)	施設栽培
チャバラ (チャバラアブラコバチ)	施設栽培
テントップ (ナミテントウ)	施設栽培
カメノコS (ヒメカメノコテントウ)	施設栽培
ゴッツA (ペキロマイセス テヌイペス)	施設栽培
ブリファード水和剤 (ペキロマイセス フモソロセウス)	ワタアブラムシでの登録

2 気門封鎖剤

薬剤名
エコビタ液剤
オレート液剤
サフオイル乳剤
サンクリスタル乳剤
粘着くん液剤
ビタイチ
フーモン
ムシラップ

3 自然くん煙

薬剤名
モスピランジェット

○ 天敵昆虫製剤、天敵微生物製剤の使用上の留意事

1 天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

2 アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。

○ くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用法の項](#)を参照する。

病害虫	防除法	参考事項
アブラムシ類	4 発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。 薬剤名 アーデント水和剤 マブリック水和剤 20 ロディー乳剤 バリアード顆粒水和剤 ベストガード水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤 ベネビアOD トランスフォームフロアブル ウララDF モベントフロアブル チェス顆粒水和剤 アクタラ粒剤 5 アドマイヤー 1 粒剤 スタークル/アルバリン粒剤 ダントツ粒剤 ベストガード粒剤 モスピラン粒剤	
コガネムシ類	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 育苗期には、幼虫の防除のため、下記薬剤のいずれかを処理する。 薬剤名 カルホス乳剤 カルホス微粒剤 F ダイアジノン S L ゾル ダイアジノン粒剤 5 トクチオン細粒剤 F フォース粒剤 2 本ば定植前又は定植時に下記薬剤のいずれかを処理する。 薬剤名 ダイアジノン S L ゾル ダイアジノン粒剤 5 モスピラン粒剤	○ アカビロウドコガネ、ドウガネブイブイ、アオドウガネが多い。

コナジラミ類

・ [共通防除の章のコナジラミ類の防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 連作する場合には、作と作の間に施設内に植物が存在しない期間を設け、コナジラミ類がリレーされることを避ける。
- 2 育苗期の防除に努め、コナジラミ類が寄生していない苗を定植する。鉢物など、栽培に関係のない植物は、施設内に持ち込まない。
- 3 寄生範囲が広いため、ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 4 夏期には露地においても発生が多くなるため、秋期より栽培(定植)の始まる作型では、施設内への成虫の侵入防止対策を徹底する。0.4mm目以下の防虫ネット、紫外線除去フィルム、光反射資材によるマルチ等を活用する。ただし、受粉を目的としてマルハナバチを利用する場合には、紫外線除去フィルムの使用がマルハナバチの活動に影響を与えることに留意する。

(判断、防除に関する措置)

- 1 特にタバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しやすいので、予防策を基本とした総合防除を行う。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等を行う。
- 3 成虫密度の低下のため、粘着シート等を設置する。施設で発生予察のために黄色粘着テープを使用する場合は、侵入防止を徹底したうえで、施設の出入口や側窓付近に張り、定期的に交換する。
- 4 生物農薬(下表)を活用した防除を行う。
- 5 本園において化学的防除を行う際は、早期発見、早期防除に重点を置き、薬剤効果に差があるので種の区別を的確に行う。
- 6 薬剤散布を行うに当たっては、葉裏に寄生している幼虫、蛹にも必ず薬剤がかかるよう丁寧に十分な量を散布する。さらに、薬剤が株全体によく到達するよう下葉の処分を早期に行うなど工夫する。
- 7 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 8 施設栽培においては、栽培終了後に作物上に寄生したコナジラミの施設外への逃亡・拡散を防止するため、収穫後の残さはキルパーの処理([共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項の「キルパーを用いた前作の古株枯死、病害虫まん延防止」](#)を参照)や施設の密閉処理により、枯死、乾燥させた上で処分する。 [農薬登録情報](#)

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬

【天敵カブリダニ、昆虫製剤】

薬剤名(天敵名)	備考
エルカード	施設のみ
(サバクツヤコバチ成虫)	
エンストリップ	施設のみ
(オンシツツヤコバチ)	
サバクトップ	施設のみ
(サバクツヤコバチ羽化成虫)	
スワルスキー	施設のみ
(スワルスキーカブリダニ)	
スワルスキープラス	施設のみ
(スワルスキーカブリダニ)	
ツヤトップ	施設のみ オンシツコナジラミのみ
(オンシツツヤコバチ)	
ツヤトップ25	施設のみ オンシツコナジラミのみ
(オンシツツヤコバチ)	
ツヤバラリ	施設のみ
(オンシツツヤコバチ)	
リモニカ	施設のみ
(リモニカスカブリダニ)	

病害虫	防除法	参考事項
コナジラミ類	【天敵微生物製剤】	○ 天敵昆虫製剤、天敵微生物製剤の使用上の留意事項 1 天敵の放飼と薬剤散布（殺菌剤を含む）とを併用する場合は、農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。 2 コナジラミ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。
	薬剤名（天敵名）	
	ゴツツA	
	（ペキロマイセス テヌイペス）	
	ブリファード水和剤	
	（ペキロマイセス・フモソロセウス）	
	ボタニガードE S	
	（ボーベリア・バシアーナ GHA）	
	ボタニガード水和剤	
	（ボーベリア・バシアーナ GHA）	
	マイコタール	
	（バーティシリウム・レカニ）	
	2 気門封鎖剤	
	薬剤名	
	エコビタ液剤	
	オレート液剤	
	サフオイル乳剤	
	サンクリスタル乳剤	
	粘着くん液剤	
	フーモン	
	ムシラップ	
	3 キルパーを用いた病害虫まん延防止（ 共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項の「キルパーを用いた前作の古株枯死、病害虫まん延防止」 を参照） 農薬登録情報	
	薬剤名	
	キルパー	
	備考	
	前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死で登録	
	4 薬剤抵抗性の発達を回避するため、異なる系統から薬剤を選びローテーション散布を行う。	
	薬剤名	
	バリアード顆粒水和剤	
	ベストガード水溶剤	
	モスピラン顆粒水溶剤	
	ベネビアOD	
	ベリマークSC	
	ディアナSC	
	ウララDF	
	コルト顆粒水和剤	
	チェス顆粒水和剤	
	トランスフォームフロアブル	
	モベントフロアブル	
	モスピラン粒剤	

病害虫	防除法	参考事項																					
ネキリムシ類	・ 共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 下記薬剤のいずれかを処理する。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>ガードベイトA</td></tr><tr><td>フォース粒剤</td></tr></table>	薬剤名	ガードベイトA	フォース粒剤																			
薬剤名																							
ガードベイトA																							
フォース粒剤																							
ハスモンヨトウ	・ 共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項を参照する。 (予防に関する措置) 1 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。 3 交信かく乱剤(下表)を活用した防除を行う。 (判断、防除に関する措置) 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。 2 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。 4 BT 剤(下表)を活用した防除を行う。 5 施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。 6 作物残さを適切に処分する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 交信かく乱剤 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>ヨトウコンーH</td></tr><tr><td>コンフューザーV</td></tr></table> 2 BT 剤 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>エコマスターBT</td></tr><tr><td>クオークフロアブル</td></tr><tr><td>サブリナフロアブル</td></tr><tr><td>デルフィン顆粒水和剤</td></tr><tr><td>フローバックDF</td></tr></table> 3 若齢幼虫のうちに、下記薬剤を散布する。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>フェニックス顆粒水和剤</td></tr><tr><td>ブレバソンフロアブル5</td></tr><tr><td>アニキ乳剤</td></tr><tr><td>アフアーム乳剤</td></tr><tr><td>ディアナSC</td></tr><tr><td>アタブロン乳剤</td></tr><tr><td>カウンター乳剤</td></tr><tr><td>カスケード乳剤</td></tr><tr><td>ノーモルト乳剤</td></tr><tr><td>ファルコンフロアブル</td></tr><tr><td>マツチ乳剤</td></tr></table>	薬剤名	ヨトウコンーH	コンフューザーV	薬剤名	エコマスターBT	クオークフロアブル	サブリナフロアブル	デルフィン顆粒水和剤	フローバックDF	薬剤名	フェニックス顆粒水和剤	ブレバソンフロアブル5	アニキ乳剤	アフアーム乳剤	ディアナSC	アタブロン乳剤	カウンター乳剤	カスケード乳剤	ノーモルト乳剤	ファルコンフロアブル	マツチ乳剤	
薬剤名																							
ヨトウコンーH																							
コンフューザーV																							
薬剤名																							
エコマスターBT																							
クオークフロアブル																							
サブリナフロアブル																							
デルフィン顆粒水和剤																							
フローバックDF																							
薬剤名																							
フェニックス顆粒水和剤																							
ブレバソンフロアブル5																							
アニキ乳剤																							
アフアーム乳剤																							
ディアナSC																							
アタブロン乳剤																							
カウンター乳剤																							
カスケード乳剤																							
ノーモルト乳剤																							
ファルコンフロアブル																							
マツチ乳剤																							

病害虫	防除法	参考事項																										
ハスモンヨトウ	マトリックフロアブル ロムダンフロアブル グレーシア乳剤 コテツフロアブル トルネードエースDF プレオフロアブル 2 下記薬剤の処理を行う。 薬剤名 ネキリエースK																											
アザミウマ類	・ 共通防除の章のアザミウマ類の防除の項を参照する。 (予防に関する措置) 1 苗を介したほ場への持込みを防ぐため、育苗床での防除を徹底する。 2 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネットを展張する。育苗期の被覆も有効である。ほぼ完全に侵入を阻止するには、目合い0.4mm以下の防虫ネットが必要である。 3 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。 4 施設栽培においては、紫外線除去フィルム、光反射資材によるマルチ、粘着シート等の活用により、施設内への侵入を防止する。 5 マルチの敷設により、土中での蛹化を防ぐ。 6 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。 (判断、防除に関する措置) 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。 2 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。 3 作物残さを適切に処分する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 生物農薬 <table><thead><tr><th>薬剤名(天敵名)</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>スワルスキー (スワルスキーカブリダニ)</td><td></td></tr><tr><td>スワルスキープラス (スワルスキーカブリダニ)</td><td></td></tr><tr><td>ククメリス (ククメリスカブリダニ)</td><td>施設のみ</td></tr><tr><td>メリトップ (ククメリスカブリダニ)</td><td>施設のみ</td></tr><tr><td>リモニカ (リモニカスカブリダニ)</td><td>施設のみ</td></tr><tr><td>オリスターA (タイリクヒメハナカメムシ)</td><td>施設のみ</td></tr><tr><td>トスパック (タイリクヒメハナカメムシ)</td><td>施設のみ</td></tr><tr><td>リクトップ (タイリクヒメハナカメムシ)</td><td>施設のみ</td></tr><tr><td>タイリク (タイリクヒメハナカメムシ)</td><td>施設のみ</td></tr><tr><td>アリガタ (アリガタシマアザミウマ)</td><td>施設のみ</td></tr><tr><td>ボタニガードES (ボーベリア・バシアーナ)</td><td></td></tr><tr><td>ボタニガード水和剤 (ボーベリア・バシアーナ)</td><td>施設のみ</td></tr></tbody></table>	薬剤名(天敵名)	備考	スワルスキー (スワルスキーカブリダニ)		スワルスキープラス (スワルスキーカブリダニ)		ククメリス (ククメリスカブリダニ)	施設のみ	メリトップ (ククメリスカブリダニ)	施設のみ	リモニカ (リモニカスカブリダニ)	施設のみ	オリスターA (タイリクヒメハナカメムシ)	施設のみ	トスパック (タイリクヒメハナカメムシ)	施設のみ	リクトップ (タイリクヒメハナカメムシ)	施設のみ	タイリク (タイリクヒメハナカメムシ)	施設のみ	アリガタ (アリガタシマアザミウマ)	施設のみ	ボタニガードES (ボーベリア・バシアーナ)		ボタニガード水和剤 (ボーベリア・バシアーナ)	施設のみ	○ 天敵昆虫製剤、天敵微生物製剤の使用上の留意事項 1 天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。 2 アザミウマ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。 ○ くん煙剤の使用については、共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用法の項を参照する。
薬剤名(天敵名)	備考																											
スワルスキー (スワルスキーカブリダニ)																												
スワルスキープラス (スワルスキーカブリダニ)																												
ククメリス (ククメリスカブリダニ)	施設のみ																											
メリトップ (ククメリスカブリダニ)	施設のみ																											
リモニカ (リモニカスカブリダニ)	施設のみ																											
オリスターA (タイリクヒメハナカメムシ)	施設のみ																											
トスパック (タイリクヒメハナカメムシ)	施設のみ																											
リクトップ (タイリクヒメハナカメムシ)	施設のみ																											
タイリク (タイリクヒメハナカメムシ)	施設のみ																											
アリガタ (アリガタシマアザミウマ)	施設のみ																											
ボタニガードES (ボーベリア・バシアーナ)																												
ボタニガード水和剤 (ボーベリア・バシアーナ)	施設のみ																											

病害虫	防除法	参考事項
アザミウマ類	2 自然くん煙	
	薬剤名	
	モスピランジェット	
	3 発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。 【ミカンキイロアザミウマ】	
	薬剤名	
	備考	
	アーデント水和剤	
	モスピラン顆粒水溶剤	
	アザミウマ類での登録	
	ベリマークSC	
	かん注。アザミウマ類での登録。	
	スピノエース顆粒水和剤	
	アザミウマ類での登録	
	ディアナSC	
	アザミウマ類での登録	
	カウンター乳剤	
	アザミウマ類での登録	
	カスケード乳剤	
	アザミウマ類での登録	
	マッチ乳剤	
	アザミウマ類での登録	
	コテツフロアブル	
	ハチハチフロアブル	
	アザミウマ類での登録	
	ファインセーブフロアブル	
	アザミウマ類での登録	
	プレオフロアブル	
	アザミウマ類での登録	

ハダニ類

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 苗を介したほ場への持込みを防ぐため、苗の二酸化炭素くん蒸を実施し、又は育苗床での防除を徹底する。
- 3 新葉の展開に伴い、不要な下葉を除去する。

(判断、防除に関する措置)

- 1 生物農薬や気門封鎖剤（下表）を活用した防除を行う。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

1 生物農薬

薬剤名(天敵名)	備考
スパイデックス (チリカブリダニ)	施設のみ
チリガブリ (チリカブリダニ)	施設のみ
チリトップ (チリカブリダニ)	施設のみ
システムミヤコくん (ミヤコカブリダニ)	
スパイカルプラス (ミヤコカブリダニ)	
スパイカルEX (ミヤコカブリダニ)	

2 気門封鎖剤

薬剤名	備考
アカリタッチ乳剤	
エコビタ液剤	
サフオイル乳剤	いちごに使用する場合には、オーソサイド水和剤80およびデランフロアブルとの混用は避け、近接散布する場合には少なくとも28日以上開ける。なお、28日以上開けても下葉には薬害を生じるおそれがあるため注意する。
サンクリスタル乳剤	
粘着くん液剤	
ビタイチ	
フーモン	
ムシラップ	

3 自然くん煙

薬剤名
テルスタージェット
マブリックジェット
ロディーくん煙顆粒

○ 天敵昆虫製剤、天敵微生物製剤の使用上の留意事項

- 1 天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
- 2 ハダニ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。

○ くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方の項](#)を参照する。

病害虫	防除法	参考事項																																																		
ハダニ類	4 発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。 <table><thead><tr><th>薬剤名</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>エアータック乳剤</td><td></td></tr><tr><td>トモノールS</td><td></td></tr><tr><td>スプレーオイル</td><td></td></tr><tr><td>アタックオイル</td><td></td></tr><tr><td>ハーベストオイル</td><td></td></tr><tr><td>ラビサンスプレー</td><td></td></tr><tr><td>トクチオン乳剤</td><td></td></tr><tr><td>テデオン乳剤</td><td>殺卵効果は高いが、成虫には劣る。</td></tr><tr><td>ニッソラン水和剤</td><td>殺卵効果は高いが、成虫には劣る。</td></tr><tr><td>アーデント水和剤</td><td></td></tr><tr><td>ロディー乳剤</td><td></td></tr><tr><td>サンマイトフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>ダニトロンフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>ピラニカEW</td><td></td></tr><tr><td>コテツフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>アグリメック</td><td>親株育成期または育苗期のみ。</td></tr><tr><td>アフファーム乳剤</td><td></td></tr><tr><td>コロマイト水和剤</td><td></td></tr><tr><td>スターマイトフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>ダニサラバフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>カネマイトフロアブル</td><td>新葉の葉裏に褐変症状の薬害を生じることがあるが、その後の生育に影響は認められていない。</td></tr><tr><td>ダニオーテフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>バロックフロアブル</td><td>殺卵・殺幼虫効果。</td></tr><tr><td>マイトコーネフロアブル</td><td></td></tr></tbody></table>	薬剤名	備考	エアータック乳剤		トモノールS		スプレーオイル		アタックオイル		ハーベストオイル		ラビサンスプレー		トクチオン乳剤		テデオン乳剤	殺卵効果は高いが、成虫には劣る。	ニッソラン水和剤	殺卵効果は高いが、成虫には劣る。	アーデント水和剤		ロディー乳剤		サンマイトフロアブル		ダニトロンフロアブル		ピラニカEW		コテツフロアブル		アグリメック	親株育成期または育苗期のみ。	アフファーム乳剤		コロマイト水和剤		スターマイトフロアブル		ダニサラバフロアブル		カネマイトフロアブル	新葉の葉裏に褐変症状の薬害を生じることがあるが、その後の生育に影響は認められていない。	ダニオーテフロアブル		バロックフロアブル	殺卵・殺幼虫効果。	マイトコーネフロアブル		
薬剤名	備考																																																			
エアータック乳剤																																																				
トモノールS																																																				
スプレーオイル																																																				
アタックオイル																																																				
ハーベストオイル																																																				
ラビサンスプレー																																																				
トクチオン乳剤																																																				
テデオン乳剤	殺卵効果は高いが、成虫には劣る。																																																			
ニッソラン水和剤	殺卵効果は高いが、成虫には劣る。																																																			
アーデント水和剤																																																				
ロディー乳剤																																																				
サンマイトフロアブル																																																				
ダニトロンフロアブル																																																				
ピラニカEW																																																				
コテツフロアブル																																																				
アグリメック	親株育成期または育苗期のみ。																																																			
アフファーム乳剤																																																				
コロマイト水和剤																																																				
スターマイトフロアブル																																																				
ダニサラバフロアブル																																																				
カネマイトフロアブル	新葉の葉裏に褐変症状の薬害を生じることがあるが、その後の生育に影響は認められていない。																																																			
ダニオーテフロアブル																																																				
バロックフロアブル	殺卵・殺幼虫効果。																																																			
マイトコーネフロアブル																																																				
チャノホコリダニ、シクラメンホコリダニ	(薬剤防除) 農薬登録情報【チャノホコリダニ】・【シクラメンホコリダニ】 1 下記薬剤のいずれかを散布する。 <table><thead><tr><th>薬剤名</th></tr></thead><tbody><tr><td>サンマイトフロアブル</td></tr></tbody></table> 【シクラメンホコリダニ】 <table><thead><tr><th>薬剤名</th></tr></thead><tbody><tr><td>コテツフロアブル</td></tr><tr><td>コロマイト水和剤</td></tr><tr><td>スターマイトフロアブル</td></tr></tbody></table>	薬剤名	サンマイトフロアブル	薬剤名	コテツフロアブル	コロマイト水和剤	スターマイトフロアブル																																													
薬剤名																																																				
サンマイトフロアブル																																																				
薬剤名																																																				
コテツフロアブル																																																				
コロマイト水和剤																																																				
スターマイトフロアブル																																																				
イチゴメセンチュウ	(耕種的・物理的防除) 1 健全苗を植付ける。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 下記薬剤を1週間おきに3～4回散布する。 <table><thead><tr><th>薬剤名</th></tr></thead><tbody><tr><td>ランネート45DF</td></tr></tbody></table>	薬剤名	ランネート45DF	○ 苗床で感染し、ランナーや水媒により株から株に移り増殖する。 ○ ランネートは吸入毒性が強いので、必ずマスクを着用する。施設内では絶対に使用しない。																																																
薬剤名																																																				
ランネート45DF																																																				

病害虫	防除法	参考事項	
ネグサレセンチュウ類	・ 共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項 を参照する。	○ 生物薬剤使用上の留意事項 1 パスツールリア ペネトランスがほ場に定着し、効果を発揮するまで、2～3年かかる。この間、D-D剤や粒剤を用い体系的な防除に努める。 2 くん蒸剤には、キルパー、テロン、D-D剤を使用できるが、クロルピクリンは土壌中のパスツールリア ペネトランスに影響を与えるため使用できない。 3 防除効果は、サツマイモネコブセンチュウに限定される。	
	(耕種的・物理的防除)		
	1 健全苗を植付ける。		
	(薬剤防除) 農薬登録情報		
	1 生物農薬		
	薬剤名		
	パストリア水和剤		
	(薬剤防除)		
	2 下記薬剤を施用する。		
	薬剤名		備考
	DC油剤/D-D/テロン		
	ネマキック粒剤		
	ラグビーMC粒剤		
	ネマトリンエース粒剤		
	石灰窒素50		石灰窒素資材
	石灰窒素55		石灰窒素資材
	粒状石灰窒素55		石灰窒素資材
カルメート55	石灰窒素資材		
カルメート60	石灰窒素資材		
粒状石灰窒素40	石灰窒素資材		
粒状石灰窒素	石灰窒素資材		
石灰窒素50防散	石灰窒素資材		